

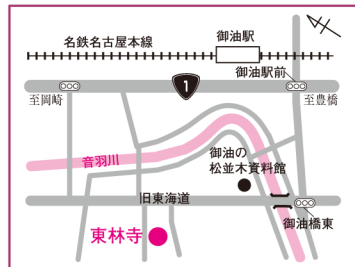


とよかわの

みつけた!



東林寺の飯盛女の墓



御油町にある東林寺は、寺伝によれば永享年間（1429～1441）に龍月日蔵和尚によって創建されたといわれています。境内の墓地には、江戸時代から昭和時代にかけての町の名家や有力者が多く葬られており、東林寺が御油の中心寺院であったことがうかがえます。この墓地の中央、土塀寄りのところに、飯盛女めしもりおんなの墓が5つ並んでいます。

飯盛女とは宿場にいた遊女のことで、その多くは、生計が苦しい家や年貢を納めることが困難な農家が、金を借りるために年季奉公に出した娘たちでした。御油宿は遊興の宿場として知られ、多くの飯盛女がいましたが、彼女らは非常に不遇な立場に置かれていました。これらの墓石は、旅籠屋はすの抱え主が飯盛女の菩提ぼだいを弔うために建てたもので、あまり知られていない宿場町の歴史の一つを今に伝えています。

今も当時の面影が残る御油宿周辺は、8月はたくさんのお祭りにぎわいます。東林寺は現在、本堂を改築中ですが、墓地には入れますので、ぜひ、お立ち寄りください。

